

新約聖書 マタイによる福音書 3 章 1 節—12 節（新共同訳）

¹ そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、² 「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。³ これは預言者イザヤによってこう言われている人である。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。』」⁴ ヨハネは、らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。⁵ そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、⁶ 罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

⁷ ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。⁸ 悔い改めにふさわしい実を結べ。⁹ 『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。¹⁰ 斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。¹¹ わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。¹² そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「道筋をまっすぐに」

本日の福音書には、イエスが神の福音を人々に宣べ伝える前に、その先駆けとして洗礼者ヨハネが行った宣教について記されています。洗礼者ヨハネはユダヤの荒れ野で「悔い改めよ。天の国は近づいた」と宣べ伝え、伝道活動を始めます（マタイ 3:1）。

洗礼者ヨハネの登場について、旧約聖書のイザヤ書には次の言葉が記されています。「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き／砂漠に大河を流れさせる」（イザヤ書 43 章 19 節）。ここで述べられているように、荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる神の御心を行うのが、洗礼者ヨハネです。

当時のユダヤで宗教活動をする公の場所は、神殿と会堂（シナゴグ）でした。しかしヨハネは、荒れ野を活動の場として選びます。

らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締めたヨハネの服装は、旧約聖書に登場する最も代表的な預言者エリヤと共通しています（列王記下 1:8）。そして、いなごと野蜜を食べ物とするヨハネは、非常に禁欲的な生活を送っていました（マタイ 3:4）。禁欲とは、ある目的意識をもって、必要最小限のもの以外は一切、削ぎ落とす姿勢だと言えるでしょう。

「余分なものは一切、削ぎ落とす」ことは、神に願をかけることにもつながるのだと思います。

旧約聖書『コヘレトの言葉』において、コヘレトはこう述べています。「神に願をかけたら／誓いを果たすのを遅らせてはならない」。「願をかけたら、誓いを果たせ。願をかけておきながら誓いを果たさないなら／願をかけないほうがよい」（コヘレト 5:3-4）。

ヨハネは、まもなく到来する救い主を迎える道備えをする使命に、全身全霊で挑んでいます。人々は、ユダヤ全土からヨハネのもとに集まり、罪を告白し、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けます（マタイ 3:6）。

このとき、ヨハネからの洗礼を受けに来た人々の中には、当時の宗教指導者である「ファリサイ派やサドカイ派の人々」が大勢いました（マタイ 3:7）。彼らは、自分たちが悔い改めをする必要性を感じていないものの、せっかくだから受けておいた方が良さだろうという心持ちで、ヨハネの洗礼を受けようとしていました。

ヨハネは彼らに「蝮（まむし）の子らよ」と厳しい言葉で呼びかけ、「差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ」と訴えます（マタイ 3:7-8）。

神の計画を、怒りの中においてもヨハネは表しました。イエスの道筋を備えるためのヨハネの宣教は、強烈で勢いのあるものだったと思われます。

厳しさと激しさを伴うヨハネの宣教からは、山の中でトンネルを開通する工事において、初めはダイナマイトなどで強力に爆破して、だんだんと整えていくというものを連想させられます。

当時、この洗礼者ヨハネこそがメシアではないかと、人々は考えました（ルカ 3:15）。しかしヨハネは、あくまでも自分は「私の後に来る方」の先駆者に過ぎないと証します（マタイ 3:11）。

ヨハネの洗礼は、罪の告白に基づく、悔い改めのしるしである「水の洗礼」でした。ヨハネの洗礼は、ひとえに悔い改めの心を表すものでした。

悔い改めとは、神に立ち帰ること、神に心を向けることです。当時のユダヤ人の中には、悔い改めを必要とするのは、神を知っている自分たちではなく、神を知らない異邦人のほうだと思っている人が多くいました。しかしヨハネは、すべての人間に対して、悔い改めるように呼びかけたのです。そして、その呼びかけに呼応するようにユダヤ全土から人々が集まったのです（マタイ 3:5-6）。

聖書における「罪」という言葉には「的外れ」という意味があります。罪という言葉には、独特の重たい響きがあります。ですが、罪とは「的外れなもの」と捉えれば、また感じ方が違うのではないのでしょうか。自分が的外れであったことを受け入れ、正しく神の方向を向くことが、悔い改めです。

旧約聖書のエゼキエル書（33章 11節）に記されているように、神は罪ある者を滅ぼすことを望んではいません。神は、罪ある者がその道から立ち帰って生きることを喜んでくださるのです。神は私たち人間に、「どうしてお前たちは死んでよいだろうか」と憐れみと慈しみの言葉を送ってくださっているのです（エゼ 33:11）。

「水の洗礼」であるヨハネの洗礼は、悔い改めに一点集中するためのものでした。ヨハネは、その先にある罪の赦しを、イエス・キリストに託したのです。

のちに到来する救い主は「聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」とヨハネは人々に語ります（マタイ 3:11）。これは、来たるべき救い主の洗礼は、人間のうちにある罪を、聖霊と火によって清める、罪の赦しの洗礼であるということです。

ヨハネは厳しく激しい言葉を人々に投げかけますが、上からものを言っているようには思えません。ヨハネは地上にしっかりと足をつけ、同じ目線で対等に、人々に語りかけているように感じられます。

ヨハネが先駆者として荒れ野に道を開き、主イエス・キリストの罪の赦しと救いが到来します。ヨハネは、渾身の力を振り絞って、その道を切り開いたのだと思います。

私たちも、人生の中において、渾身の力を振り絞らねばならない時があるでしょう。

先ほどのコヘレトの言葉を、もう一度お読みします。「神に願をかけたら／誓いを果たすのを遅らせてはならない」。「願をかけたら、誓いを果たせ。願をかけておきながら誓いを果たさないなら／願をかけないほうがよい」（コヘレト 5:3-4）。

そしてコヘレトの言う神にかける願とは、自分の欲望を満たすための願ではなく、自分の魂からの願いであり、神の御心に沿い、神の栄光を表すための願いであるのでしょう。

クリスマスが近づき、主イエス・キリストの到来を待ち望むこのアドベントの時、私たちは、イエスの先駆者であったパワフルで力強いヨハネとも、心のうちで出会いましょう。

神の栄光が、いつもあなたと共にあります。

私たちは、希望と喜びのうちに主イエス・キリストの到来を賛美し、光輝くクリスマスを待ち望みましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたの慈しみと愛によって、私たちは日々を生きていくことができます。私たちがあなたの救いを待つことができますように、希望を持ち続けさせてください。救い主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

旧約聖書 イザヤ書 11 章 1 節—10 節（新共同訳）

¹ エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち／² その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊／思慮と勇気の霊／主を知り、畏れ敬う霊。³ 彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず／耳にするとところによって弁護することはない。⁴ 弱い人のために正当な裁きを行い／この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち／唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。⁵ 正義をその腰の帯とし／真実をその身に帯びる。

⁶ 狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。⁷ 牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。⁸ 乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。⁹ わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。

¹⁰ その日が来れば／エッサイの根は／すべての民の旗印として立てられ／国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く。

新約聖書 ローマの信徒への手紙 15 章 4 節—13 節（新共同訳）

⁴ かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができるのです。⁵ 忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、⁶ 心を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエス・キリストの神であり、父である方をたたえさせていただきますように。

⁷ だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。⁸ わたしは言う。キリストは神の真実を現すために、割礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約束を確証されるためであり、⁹ 異邦人が神をその憐れみのゆえにたたえるようになるためです。

「そのため、わたしは異邦人の中であなたをたたえ、／あなたの名をほめ歌おう」と書いてあるとおりです。¹⁰ また、／「異邦人よ、主の民と共に喜べ」と言われ、¹¹ 更に、／「すべての異邦人よ、主をたたえよ。すべての民は主を賛美せよ」と言われています。¹² また、イザヤはこう言っています。「エッサイの根から芽が現れ、／異邦人を治めるために立ち上がる。異邦人は彼に望みをかける。」

¹³ 希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

教会讃美歌 181 番「ここにいます」、357 番「主なる神を」、252 番「救いのみわざを」、200 番「まことの神よ」。